

相談支援係  
072-941-3365

情報チーム  
072-943-5785

研究研修係  
072-943-5784

教育センター  
Web pageは  
こちらから



## 第1回八尾市学力向上担当者会



令和4年7月7日(木)午後3時~午後5時に第1回八尾市学力向上担当者会を行いました。研修講師は学校教育推進課の大畑直指導主事で研修テーマは「情報活用能力の育成」です。八尾市の学力向上の課題である「情報を活用し、自分の考えを表現する力」の育成に向けてシンキングツールを活用した授業提案についてワークを行いました。ワークや実践報告、交流を通じて自校でどのような取組みができるのかを考える機会となりました。

### <受講者感想>

- ・シンキングツールを実際にワークでやってみると、大変勉強になった。実際に学校に帰り、広めていきたい。また、授業支援ソフトの共有ノートや、グループで意見共有など実践例を聞くことができ参考になった。
- ・他校の実践などを交流したことで自校がこれからどのように情報教育を進めていく必要があるのかを改めて考えることができた。



## 特別支援教育・保育ゼミ全体研修



令和4年7月7日(木)午後3時30分~午後5時に特別支援教育・保育ゼミ全体研修を実施しました。研修講師は八尾市立医療型児童発達支援センターの言語聴覚士奥野真理子さんで、研修テーマは「乳幼児の言葉の発達 摂食機能について」でした。市立こども園・市立医療型児童発達支援センター・私立の就学前施設からの参加がありました。

### <受講者感想>

- ・言葉の発達に遅れがある子どもの一口量や咀嚼の仕方をしっかり見ていくことで発語に繋げていけるとということがよく分かった。
- ・子どもと接するときゆっくり話すということの大切さがよく分かった。
- ・箸やスプーンを使うための直接的な練習を繰り返すのではなく、遊びの中で練習を促す方法を知ることができた。

## 研究協力員（食育部会）



令和4年7月11日（月）午後2時～午後4時に、国道170号線服部川交差点横の圃場で、研究協力員（食育部会）が枝豆生産者の寺川さんへのインタビューとその動画撮影を行いました。今後研究協力員の活動の中で編集作業を行い、市内各学校で食育の授業に活用していく予定です。

枝豆は八尾市の特産品にも数えられる栄養豊富な夏の人気野菜です。寺川さんたちの枝豆は学校給食にも提供されており、まさに地産地消です。

### <研究協力員感想>

- ・枝豆は年に何回か給食に出しますが、八尾の枝豆を使うのはこの時（7月）だけです。新鮮な八尾の枝豆は子どもたちの評判も良く、人気のメニューです。
- ・安全安心に対する配慮をしながら、出荷日を逆算して枝豆を育てる生産者さんの苦勞がよく分かりました。ご自宅にもおうかがいして、洗浄や選別の大変さも良く分かりました。これからは給食で八尾の枝豆を使用し、子どもたちが「地産地消」について考える機会にしていきたいと思います。

## 初任者研修⑥「学校ICT研修」



「情報モラル」について班別発表中（中学校初任者）

令和4年7月20日（水）午後3時～午後5時に中学校、令和4年7月27日（水）午後3時～午後5時に小学校の初任者を対象に「学校ICT研修」を行いました。研修テーマは「学びを深めるための効果的なICT活用」です。研修講師は本センター山野元気指導主事です。

### <受講者感想>

- ・ICTは便利で上手に活用すると子どもたちの理解度も高まりとてもいい教材になると思った。その反面、危険な部分があることを考えることができたので使い方には十分気を付ける必要があると思った。しっかりと下準備をした上で授業活用をしていきたいと思う。
  - ・実際に授業の中で使ったことがある機能も多かったが、どのような場面で使えばよいか例を示してもらったので、自分の授業での使い方を見直すきっかけになった。2学期に向けて有効にICTを活用できるよう、勉強し考えていきたいと思う。
  - ・CBT試験に向けて、子どもたちが問題を思考すること以外で迷わないように1～6年全学年に視野を広げて計画的に学習することが大事だと感じた。
- ※CBTは、Computer Based Testingの略称で、テスト用紙やマークシートなどの紙ツールに依存せず、コンピュータで受験・採点・合否通知など、試験のすべての工程が完結するシステムのことです。



授業支援ソフトの有効活用を紹介（小学校初任者）



## 初任者研修⑦・新規採用栄養教諭研修⑤



令和4年7月25日(月)午前9時30分～正午に初任者研修⑦・新規採用栄養教諭研修⑤「人権について考える2」を行いました。研修テーマは①「一地域に学ぶー八尾市人権教育の現状と課題」、研修講師は人権教育課藤森優子指導主事です。研修テーマ②「夜間学級について」、研修講師は学校教育推進課佐々木一史指導主事です。研修テーマ③「適応指導教室(さわやかルーム)について」、研修講師は本センター吉原佑輔主査です。



個別学習席

### <受講者感想>

- ・多様な人権問題が提起される中で、実際に自分が教育者としてどのように人権問題に向き合い、また児童生徒たちにどのようなかわり方をすればいいのか、講義とグループでの話し合いを通して考えを深めることができました。
- ・夜間学級については知らないことが多かったが、夜間学級と通常学級のつながりがあることや、夜間学級では様々な年齢・国の方々が在籍していることが印象に残った。
- ・学校生活にうまく適応できない児童生徒には、様々なアプローチの仕方があるが、まずは安心安全な場所の確保という絶対的な土台作りが大切であることを強く感じた。自分のクラスでも一人一人と向き合えるよう、うまく時間を作り対話していきたい。さわやかルーム(教育センターの適応指導教室)でのきめ細かな配慮については感心した。

## 初任者研修⑧



令和4年7月25日(月)午後2時～午後5時に初任者研修⑧を行いました。研修テーマは「支援教育の在り方と子ども理解」で研修講師は臨床心理士の庄司真人さんです。※庄司さんは、府内中学校社会科教師・生徒指導主事として18年間勤務されたのち退職し、家業のお寺の住職をしながらスクールカウンセラー(臨床心理士資格取得)として学校教育ともかかわっておられます。

### <受講者感想>

- ・今日の講義を聞いて、自分が子どものマイナスの行動にばかり目を向けてしまっていたことを反省した。子どものいいところを見つけ、素早く褒めることのできる技術を試行錯誤しながら身に付け、子どもが安心して、成長できる学級を作っていきたい。

- ・ 教員という職業に対してどのように取り組めばいいのかそのメンタリティのようなものを聞いたことは非常に印象深い。
- ・ 自分は支援学級担任をしているので今日の講義はとても貴重なものだった。特に、ADHD や ASD の実感体験は、実際に子どもたちが感じている困り感を体験できた。すべてを理解することは難しいかもしれないけど、このような感じ方をしていると知っているだけでも対応や声かけの仕方が変わると思うので、感じたことを忘れずに大切にしていきたい。

## 3 年次研修②



令和4年7月26日（火）と8月2日（火）の午後3時30分～午後5時に、3年次研修②情報モラルセキュリティ研修をオンライン（リアルタイム）で行いました。研修講師は広島県教科用図書販売（株）好本さんです。研修テーマは「『事例で学ぶNET モラル』の活用方法」です。

### <受講者感想>

- ・ さまざまなネットモラル関係の問題がある中で、改めて子供たちにネットモラルについての正しい知識を教えていくことは大切だと感じました。
- ・ 情報教育は、具体的な事例と一緒に学ぶことが大切で、子どもたちの危機意識にもつながると思う。グループ別での話し合いでは、多様な事例を聴くことができ参考になった。
- ・ ネットトラブルは子どもたちが思っている以上に大きな問題につながりかねないということを、きちんと子どもたちに伝えていくことが大事だと思った。

## 初任者研修⑨「授業づくり4」



令和4年7月28日（木）午前9時30分～正午に初任者研修⑨「授業づくり研修4」を行いました。研修テーマは「学習評価をいかした授業づくり【理論】」で、研修講師は本センター川村泰司指導主事です。

この研修は班別の討議や、班の代表者による検討内容の発表等も行いました。班分けはいつも同じではなく、校種・校区を越えて様々な人と話ができるように工夫しています。

今後、初任者は「評価と分析」というシートを使って自分の授業について自己評価を行い、その原因について分析していきます。また各自「学習指導案」を作成し、実践したことを「実践レポート」としてまとめることになっています。





### <受講者感想>

- ・改めて学習評価について考えさせられる研修であった。初任者同士での話し合いを通じてより改善点が明確になった。2 学期からはこの改善点を生かして、よりよい学習評価を用いた授業を行いたい。
- ・「身に付けさせたい力」を明確にして、授業を行う大切さを学んだ。教材研究をする際には、この時間では、「どこで 1 番思考の時間が必要か」と「評価」が結びつくように考えていきたい。
- ・子どもたちが食いつくような授業づくりをしていきたい。そのためにも、まずは、授業支援ソフトを有効に使っていきたい。
- ・評価は、生徒の定着度を測るのみならず、それを踏まえて教師が授業改善に努めるためにも重要であることをしっかりと心にとめておき、日々の授業の評価規準や評価基準をはっきりさせて授業に臨んでいきたい。

## 初任者研修⑩ 「人権・児童生徒理解」



令和4年7月28日(木)午後2時～午後5時に初任者研修⑩「児童生徒理解を深めるために1」と「人権について考える3」を行いました。前者の研修講師は常磐会学園大学佐谷力教授で研修テーマは「児童生徒・保護者とのかかわり方」です。後者の研修講師は人権教育課藤森優子指導主事と学校教育推進課井原武人指導主事で、研修テーマは「いじめ問題について」・「児童虐待について」と「生徒指導の3つの視点について」です。いずれの研修も2人または3人で話し合う機会が多数あり、「学び合う姿」が多くみられました。



### <受講者感想：児童生徒理解>

・児童生徒・保護者とのかかわりについては、多くのグループワークを経て「話し方ひとつでこうも印象が変わるのか」と驚いた。人の話を聞く際に、何よりも心からの誠意を持つことで自然と相手に受け入れられる傾聴となる、ということが印象に残った。これからも自分の決めつけや主観でなく、保護者や児童の思いを真摯に受け止めながら信頼関係を築いていきたいと感じた。

### <受講者感想：人権教育>

・いじめや児童虐待防止では、他人事と思わず自分のクラスの児童にも起こりうるということ意識して、予防をしながら過ごしていきたい。

・「いじめ・虐待防止について」、些細なことでも連絡報告相談を続けていこうと改めて感じた。

### <受講者感想：生徒指導>

・生徒指導の3つの視点（成長を促す指導・予防的な指導・課題解決的な指導）を意識して具体的な取り組みを、他の先生方と協力して行っていきたい。

## 校長人権教育研修



令和4年7月29日（金）午前10時～正午に人権教育課が校長人権教育研修を行いました。研修テーマは「新型コロナウイルス問題と人権—問われる差別問題の基本認識—」で研修講師は近畿大学奥田均名誉教授です。

- [1] コロナ差別—何が引き起こされているのか
- [2] 差別問題の基本認識が問われている
- [3] 困難を逆に人権確立社会建設の糧に
- [4] おわりに

※以上当日のレジュメより

<コミュニケーションカードより>

- ・差別について具体的な事例を出して説明いただき、自分なりにとても整理ができた。中でも現実認識における実感主義の克服という点には改めて自分自身に問いかけることができた。厳しい差別ほど見えにくいという意味をしっかりと受け止め学校経営にいかしていきたいと思う。
- ・サブタイトルにある差別問題の基本認識について提案された3つの問いについて学校現場の課題に照らし合わせて再考していきたい。
- ・学校は、子どもたちの人格形成の上で重要な役割を担う教育機関である。差別を見抜き、許さない子どもを育成する使命を再確認できた。人権が尊重され、誰もが安心できる学校を構築していきたいと考える。

## 10年経験者研修②



令和4年7月29日（金）午後3時～午後5時に10年経験者研修②を行いました。研修テーマは「授業づくり 授業改善の推進【理論】—今から求められている授業—」です。研修講師は本センター鈴木雅博指導主事です。研修で学んだ理論をもとに指導案を作成して持ち寄り相互に練り上げ、2学期に各自の授業で実践します。さらにその実践を踏まえて修正した指導案を12月に持ち寄り再度検討を行います。

<受講者感想>

- ・指導と評価の一体化を意識した授業づくりが重要だと改めて感じた。子どもの成果と課題をしっかりと見取りながら、授業改善をしていくべきだと思った。
- ・授業づくりについて改めて学ぶ機会となった。作成した指導案に基づき、2学期以降にさらに良い授業ができるようにがんばりたいです。次の実践報告も楽しみである。
- ・他校の先生と交流する中で、どのような点に着目して授業づくりを進めていくのかという点において、自身の取り組みに確信を持てた部分と、新たな気づきにつながる部分とがあった。今後の授業づくりに生かすために、さらなる研鑽が必要であると感じた。



## 八尾を学ぶ研修



令和4年8月1日(月)午前9時30分～午前11時30分に「八尾を学ぶ研修」を行いました。場所は安中新田会所跡旧植田家住宅です。研修テーマは「大和川の付け替えと河内木綿について」で研修講師は旧植田家住宅学芸員安藤亮さんです。解説DVD「大和川の付け替えと新田開発」を視聴したあと講義が行われました。その後、安藤さんの解説を受けながら「旧植田家住宅と昔の暮らし」の家屋、土蔵、展示室等を見学しました。

### <受講者感想>

- ・大和川の付け替えと河内木綿栽培の関連性がよく分かった。
- ・今まで個別でしか知らなかった歴史の知識が線につながったように思う。
- ・郷土の歴史を学ぶことは大切だと思うので、このような施設があるということは、素晴らしいことだと思う。
- ・中学校の授業でもここまで細かい内容を教えることはないと思うが、教員として知っておくことで授業に深みを持たせられると思う。



## 「算数」「数学」授業づくり研修①②



令和4年8月1日(月)午後2時～午後4時に「算数」「数学」授業づくり研修①を8月3日(水)に同②を行いました。研修講師は教育アドバイザーの川北章史さんです。研修テーマは「つながり、高まる、算数学習をめざして」です。この研修ではペアワークを行い、自分の考えを他者と確かめ合いながら考える手法で行いました。

### <受講者感想>

- ・ペアワークが多かったおかげで、日頃、算数の授業を受けている子どもたちの気持ちが分かった気がした。一人で考えているとどうしても気持ちが乗らなかったり、わからなくて不安になってしまったりする。今日の「エンジョイ算数」を意識して、今後も子どもたちが楽しめる仕組みと手順を説明することを大切にしたい授業を心がけていきたいと思った。
- ・「つながる」の意味を考えるとところから、様々な学びと発見があり、驚きの連続だった。子ども同士が伝え合うときに生きる大切な事柄をたくさん教えていただくことができた。2学期からの授業づくりで生かしていきたいと思う。

## 「社会」授業づくり研修



令和4年8月3日（水）午前9時30分～午前11時30分に「社会」授業づくり研修を行いました。研修講師は大阪体育大学の岡崎均教授で研修テーマは「ICT を使って授業を豊かに～一人一台のタブレットと見方考え方を培う社会教育～」でした。

### ＜受講者感想＞

- ・授業の質的改善のために ICT があることを教えて頂いたことがとても納得できた。これまで自分の学校で ICT をとにかく活用してみようということをやってみたが、あまりしっくりきていなかった。先生が「新聞は紙でやった方がいい」とおっしゃったことが本当にしっくりきた。自分が考えさせたいことや児童に身に付けてほしいことに注目し、そのためにどんな方法を使うかはしっかり考えたいと思った。
- ・「指導案に答えがない」という言葉にぎくっとなった。私自身も生徒にタブレットを活用させたり、話し合いをさせて考えさせたりすることに重点をおき過ぎた授業づくりが多いと反省した。目的や問いを明確にした授業づくりを行っていこうと思った。

## 転任教職員研修・講師のための基本研修②



令和4年8月3日（水）午後2時～午後4時に転任教職員研修・講師のための基本研修②を行いました。研修講師は人権教育課の藤森優子指導主事で研修テーマは「八尾市における人権教育の現状と課題」です。感染防止対策として受講者の席間隔を広めにとって、モニターを前後2台配置しました。

### ＜受講者感想＞

- ・今回の研修で他の受講者の意見や考えを聞くことができ、改めて自分の感覚を見直すきっかけになった。実際にこのような事象が起きた時に、普段からこのように意見交換をしておくことで、迅速に適切な対応ができると感じた。ここで学んだことをしっかりと持ち帰り、今後に活かしていきたいと思いました。
- ・差別事象について心のケアを行っていくことがどんな時にも大切であると改めて考えさせられました。また一人で抱え込まず、実態把握を行ったうえで、必ず管理職や学年団に報連相を行い、複数で対応すべきだと思った。
- ・日々人権感覚を磨く必要があると感じた。言葉の裏にある背景にも注目していく必要があると思った。



## 教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は7月から8月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）8月号

- ・特集1 教科横断的な学習ープログラミング教育・STEAM教育
- ・特集2 世界にはばたく

「道徳教育」（明治図書）8月号

- ・特集 道徳授業カスキルアップ講座2022

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）8月号

- ・特集1 こんなとき、こんな本をすすめて 子どもとかわる
- ・特集2 教員同士の交流を深める校内研修会の企画



本の紹介（「月間学校教育相談」より）

「学校司書がすすめる“旬の本”」埼玉県立高校の図書館に勤務されている司書の木下通子さんが小学生から読める本を推薦しておられます。その一部をここに紹介させていただきます。

- ・自分ってなんだろう『なんだろうなんだろう』ヨシタケシンスケ著 光村図書
- ・人は変わることを知ってほしい『ケーキの切れない非行少年たち』宮口幸治著 新潮新書
- ・「貧しさゆえに機会を奪われること」に立ち向かう物語『むこう岸』安田夏菜著 講談社

「特別支援教育」（文部科学省編集・東洋館出版社）令和4年夏 No.86

- ・特集 切れ目ない支援の充実ー早期からの相談・支援の取組ー
- ・巻頭言 夢に続く足跡

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集、東洋館出版社）8月号

- ・特集 「観点別学習状況の評価」で児童生徒の次の学びに向かう意欲を高める

「初等教育資料」（文部科学省編集、（株）東洋館出版社発行）8月号

- ・特集Ⅰ 特別な配慮を必要とする子供への指導
- ・特集Ⅱ [算数]算数科において協働的に問題解決するために

「中等教育資料」（文部科学省編集、学事出版）8月号

- ・特集 主権者として求められる資質・能力を育む教育の充実

教育科学「国語教育」（明治図書）8月号

- ・特集 ICT&1人1台端末活用で進化する 教材研究・授業づくりDX

教育科学「社会科教育」（明治図書）8月号

- ・特集 協働的な学びを深める！ ペア・グループ 学習アイデア

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集、東洋館出版社）8月号

- ・特集 算数の「協働的な学び」をいかに描くか